

資料：秋田大学医学部保健学科紀要17(1)：53 - 58, 2009

地域活動支援センター事業の活動報告 障害者が地域で普通に暮らすことを目指して

石川 隆志^{* **} 佐藤 裕子^{**} 石川 佐智子^{**}
塚本 文子^{**} 村田 千鶴子^{**} 石川 郁恵^{**}

要 旨

NPO 法人「逢い」は、在宅障害者の地域生活支援を目的に、創作的活動、生産活動、地域社会との交流活動、余暇活動等の福祉サービスを提供している。様々な作業を通じた障害者一人ひとりの能力発揮、仲間や地域の人たちとの交流を通じた対人関係技能の向上や役割活動の獲得、地域住民が障害を持ったメンバーを理解する機会の提供などの活動を通じて、メンバーの生活技能や対人関係技能の向上といった成果が得られている。安定的な事業収入の確保など運営上の課題はあるが、今後もメンバー一人ひとりのニーズに合った多様な福祉サービスを企画・提供していきたい。

はじめに

非営利活動法人 (Incorporated nonprofit organization : NPO 法人) 逢い (以下、「逢い」) は、2007年6月にNPO 法人として設立され、同年、由利本荘市から地域活動支援センター事業 (型) の委託を受け、在宅障害者の地域生活支援を目的に様々な事業を展開している。本論では、「逢い」の主な活動内容を紹介し、実践の中で得られた成果と課題について若干の考察を加えて報告する。

なお、本報告の写真を含む個人に関する情報等の公表については、本人または家族および関係者への説明を行い同意を得ている。

地域活動支援センター事業とは

障害者自立支援法において地域活動支援センターとは、障害者等を通わせ、創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進その他の厚生労働省令で定める便宜を供与する施設をいう¹⁾。また、障害者

自立支援法に基づく地域活動支援センターの設備及び運営に関する基準によると、地域活動支援センターの基本方針は、利用者 (地域活動支援センターを利用する障害者及び障害児をいう。以下同じ。) が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者を通わせ、創作的活動又は生産活動の機会の提供及び社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の供与を適切かつ効果的に行うものでなければならない²⁾とされている。その事業内容は交付税措置からなる「基礎的事業」と、国庫補助対象の「地域活動支援センター強化事業」からなり、地域活動支援センター事業には 型、型、型の類型が設けられている。基礎的事業の内容は、実施主体又は事業の委託を受けた法人が、利用者に対し創作的活動、生産活動の機会を提供等地域の実情に応じた支援を行うもの³⁾である。

地域活動支援センター強化事業のうち、地域活動支援センター 型の事業内容は、地域において雇用・就労が困難な在宅障害者に対し、機能訓練、社会適応訓練、入浴等のサービスを実施すること³⁾、職員配置は、

* 秋田大学医学部保健学科

** NPO 法人逢い

Key Words: 地域活動支援センター

在宅障害者

福祉サービス

基礎的事業による職員の他1名以上（うち1名以上を常勤³⁾）と規定されており、障害者が地域で自立し生き甲斐を持って生活していけるように支援することが大きな役割となっている。

・「違い」の事業方針と理念

「違い」は、「障害者の意思及び人格を尊重し、一人ひとりの特性に応じた存在価値と役割期待のある活動を支援し、地域社会との交流を図りながら、相互理解・相互支援を深めつつ日常生活、社会生活のスキルアップを目指す⁴⁾」ことを事業方針に掲げている。大規模な収容施設から地域へと障害者の生活の場は移行しつつあるが、生活する場が自宅や地域社会の中に移ったとしても、障害者個々のニーズを捉えた支援が具体的な形で行われなければ、障害者自立支援法に掲げられた理念の実現は難しい。障害者が地域社会の中で役割を持ち、その能力を発揮する場や地域住民と交流する機会を通じて、地域住民の障害者への理解や障害者が地域社会の中で生活することの理解が得られ、地域社会における支援体制が整っていくと考える。「違い」では、地域で生活している障害者（以下、メンバーと呼ぶ）がそれぞれの能力に合った活動と地域社会・住民との交流等を通じて、地域社会の中で生活していく力を養うことができるという理念のもと、様々な事業を企画・展開している。

・「違い」のメンバーとスタッフ

2007年度末における「違い」の登録メンバーは28名（男性22名、女性6名：16歳～70歳：平均年齢46.6±19.4歳）であり、その多くが自宅やグループホームに居住している知的障害者や自閉症の人達である。2009年1月末の登録メンバーは34名となっており、グループホーム入所者で就職していたが不況のため離職した、在宅生活しているが若いにもかかわらず就労先がない、地域に通所更生施設や小規模作業所などの受け入れ施設が少ないなどが、利用希望者が増えている理由と考

えられる。メンバーの利用頻度は個々のニーズにより週1回から週5回までとなっている。

法人のスタッフは常勤3名、非常勤2名の計5名、法人会員は13名であり、筆頭筆者はボランティアとして活動に関わっている。

・「違い」の事業概要

1. 「違い」の主な事業

「違い」の主な事業内容と2007年度の述べ参加人数を表1に示し、その概要を以下に紹介する。

1) 創作的活動

絵画、はり絵、切り絵等を実施している。絵画と切り絵は主に個人作業であるが、はり絵は共同作業で行っている。

絵画やはり絵の制作場面は、2007年8月の秋田県・秋田市中小路商店街主催、秋田県教育委員会共催の「AKITA カジュアルアーツフェスタ2007」（図1）や2008年9月の「ストリートアート in 本荘」などにおいて公開した。「ストリートアート in 本荘」については後に紹介する。

2) 生産活動

魔法の鉢作り、木工、畑作り等を実施している。魔法の鉢とは、京都市在住の大野月子氏が考案した古新聞とセメントを主原料として創る植木鉢である。大野氏の支援と協力を得て、「違い」の生産活動の中心として位置付けている。作成した鉢には市内の知的障害者の施設から購入した花や山野草を植栽してバザー等で販売している（図2）。

木工では絵画用のパネルや流木を利用した作品を作製し、畑では四季折々の野菜作り等を行っている。

3) 地域社会との交流

制作品の展示・販売、魔法の鉢作りのワークショップ、クリーンアップ、喫茶店営業等を実施している。

創作的活動で作成した魔法の鉢は、市内の交流センターで常設販売されており、メンバーがスタッ

表1 「違い」の主な事業と2007年度の述べ参加メンバー数

事業名	内容	述べ参加人数(人)
1) 創作的活動	絵画、切り絵、はり絵 等	450
2) 生産活動	魔法の鉢作り、木工、畑作り 等	550
3) 地域社会との交流	制作品の展示・販売、ワークショップ（魔法の鉢作り）、クリーンアップ、喫茶店営業 等	520
4) 余暇活動	地域行事への参加、レクリエーション、旅行 等	50
5) 福祉等相談会	各種相談の対応、研修会、懇談会	20

フと共に接客にあっている。また、2007年6月の秋田市民市場における「第2回うつわと写真と音楽」や2008年9月の「ストリートアート in 本荘」で絵画等とともに展示・販売された。

クリーンアップはメンバーとスタッフにより、本荘駅前商店街通り、旧由利組合総合病院跡地近辺、そして「逢い」が所属している町内会および周辺地域にて、月1回程度実施されている。

ワークショップは地域住民を対象に、魔法の鉢作りを主に実施している(図3)。制作方法の説明や実演など、メンバーはそれぞれの役割を持ち関わっている。

喫茶店は「よりみち喫茶」の看板を掲げ、毎週水曜と日曜の午後1時から3時まで、「逢い」を店舗として営業している。店内にはメンバーによる絵画や切り絵、魔法の鉢などが展示されており、提供する飲み物とお菓子の準備、接客、支払いへの対応、後片づけなどはメンバーが主に行い、スタッフはサポート役となっている(図4)。「よりみち喫茶」には地域住民の常連客が通うようになり、また、メンバーの家族の交流の場ともなっている。

4) 余暇活動

地域行事への参加、レクリエーションなど、「あたりまえに楽しむ」ことを重視した毎週1回行われる活動である。

余暇活動は市内の体育館における屋内スポーツ、近隣の観光地の散策、釣り堀での釣り、映画・コンサート鑑賞、温泉利用など、メンバーが楽しみにしている活動である。2008年11月には青森への一泊旅行を実施した。この旅行については後で紹介する。

5) 福祉等相談会

2007年度には福祉相談会および研修会を3回実施した。相談会ではメンバーの生活状況、地域社会との関係等の相談に対応した。研修会では知的障害や自閉症をテーマにスタッフと家族がともに学び、その後家族との懇談の機会を持ち親睦を深めた。このように、福祉等相談会には家族への支援という大切な役割がある。

2. 逢いの一と支援における留意点

「逢い」の利用日は日曜日から木曜日までの5日間となっている。「逢い」の一日のスケジュール⁵⁾を表2に示す。メンバーとスタッフによる朝のミーティングにおいてその日の活動内容が確認され、昼食をはさんでメンバーはそれぞれ創作的活動や生産活動等に取り

表2 「逢い」の一日のスケジュール

8:30	送迎
9:40	朝のミーティング
9:50	午前の活動
11:30	昼食(準備, 調理, 後片づけ)
13:30	午後の活動
15:00	ティータイム
15:30	後片づけ
16:00	送迎

組んでいる。2名のメンバーが昼食の準備、調理、後片づけの役割を担っている。その日の活動に応じてスケジュールには柔軟に対応するようにしている。

メンバー一人ひとりが様々な活動を通じて達成感や有能感を得ること、主体性や能動性を発揮し生き甲斐を感じられるように、スタッフは多様な活動と場の提供を心がけている。一つの活動の過程にすべて関わることのできるメンバーばかりではないため、それぞれの能力に合った活動を経験できるように配慮している。また、対人関係技能の向上や役割獲得の貴重な機会となることから、法人施設内外における仲間や地域住民との交流を積極的に行うようにしている。

3. ストリートアート in 本荘

「逢い」のメンバーによる表現活動を通じて地域社会との交流を図ることを目的に、2008年9月13日に「ストリートアート in 本荘」と題したイベントが開催された。由利本荘市の本荘駅ロータリー歩道を会場に、「逢い」のメンバーによるアート作品制作・展示が行われた(図5)。当日は午前から開始された準備から後片づけまでメンバーおよびボランティア約20名が参加し、ストリートアートの他、メンバーによる作品のポストカードや生産活動で作成された魔法の鉢の販売、つくば市NPO法人自然生(じねんじょ)クラブメンバーの作品展示、キッズアート等さまざまな活動が行われた。また、地元の本荘高校美術部部員やゆり養護学校の生徒もメンバーと肩を並べて創作活動に取り組んだ。約2時間で完成した作品は、JR東日本の協力を得て、本荘駅内のギャラリーに飾られた。

当日は駅利用者をはじめ地域住民約50人が見学に訪れた。集中して作品制作に取り組む姿や、制作中の生き生きとしたメンバーの表情などを間近にし、見学に訪れた方からは驚きと賞賛の感想も聞かれた。このイベントの様子は9月25日の秋田魁新報でも写真とともに紹介された。

4. 2008地域活動支援センター「逢い」青森旅行

2008年11月1日(土)から2日(日)の一泊二日



図1 AKITA カジュアルアーツフェスタ2007
における作品制作



図4 よりみち喫茶における接客



図2 魔法の鉢



図5 ストリートアート in 本荘における作品制作



図3 魔法の鉢作りのワークショップ



図6 Bさんによる切り絵作品 (下絵の使用に
ついては、著作権者の許諾を得ています)

「逢い」の青森旅行が行われた。日程、目的地、宿泊先、予算等について、約1ヶ月をかけてメンバーが中心になり準備が進められた。旅行のためのミーティングが週2回程度、活動プログラムに組み込まれた。準備作業のなかで、目的地の観光協会や保険会社への問い合わせや折衝もメンバーが行い、スタッフはサポートとフォローの役割を心がけた。

創作的活動や生産活動に役立つということから、青森市の国際芸術センター青森と青森県立美術館の見学をメイン企画に、往路の十和田湖畔散策、弘前市の「星と森のロマンピア」のコテージ宿泊という旅行計画が立てられ、10名のメンバーとボランティア2名を含むスタッフ6名が参加した。

前日の食事や必要物品の買い出しはメンバーとスタッフが分担した。往路と復路における外食や買い物、湖畔のホテルにおける休憩、宿泊したコテージにおける食事準備、後片づけ、寝具の準備と後片づけ等、参加メンバーの能力に応じた経験をし、役割を担うことを重視した。旅行終了後の参加メンバーからは、美術館が素晴らしかったこと、旅行できたことが楽しかったこと、仲間と旅行したことがうれしかったこと、次回の旅行にも参加したい等の感想が聞かれた。

．事業を通じて得られた成果と今後の課題

地域で生活する障害者一人ひとりに合った福祉サービスを提供するためには、それぞれのニーズを捉えた多様かつ継続的な支援体制を整えることが必要である。以下に「逢い」の活動を通じて好ましい変化が認められた3事例について紹介する。

数年前までは自宅に引きこもり他者との交流を持つことができなかつた知的障害を持つ20代前半のAさんは、「逢い」の様々な活動を経験することを通じて、現在では喫茶店の接客を行えるようになり、旅行にも参加し、たくさんの笑顔を見せるようになった。自閉的な傾向があり目的的な活動は難しいかなとスタッフも感じていた20代前半のBさんは、切り絵の題材に向かうと数時間集中して見事な作品を仕上げ(図6)、旅行では料理の盛りつけを手伝うことができた。パソコンやゲームに夢中になり昼夜逆転の生活リズムとなっていた知的障害を持つ30代前半のCさんは、ヘルパー3級の資格を取り介護保険施設で非常勤スタッフとして働く傍ら、「逢い」の広告資料や絵画のポストカード作成、旅行企画のリーダー等の役割を担うようになった。絵画に取り組んでいたが、現在はパソコンでのイラストにチャレンジしている。

このように、「逢い」の事業を通じてスタッフも気

づかずにいた、あるいは予想できなかったメンバーの潜在的な能力が明らかになる等の成果が得られてきている。それは、「逢い」における様々な活動を通じた関わりのなかで把握したメンバー一人ひとりのニーズを踏まえ、個別支援計画に基づいたサービスを提供した結果と考えられ、スタッフ一同手応えを感じている。また、地域社会や地域住民との交流活動を通じて、「逢い」の事業とメンバーに対する地域住民の理解が深まりつつあることも実感している。さらに、「逢い」の事業を通じてスタッフも成長する機会を与えていただいていることに感謝している。

一方、地域活動支援センター事業は市町村事業であり、補助金への依存度が高い。昨今の経済状況の悪化や行政改革を背景に補助金は減額されており、安定的な事業実施のための収入およびスタッフ数確保が大きな課題となっている。

地域のなかで障害区分にかかわらず利用できる施設として、「逢い」に対するニーズは大きい。解決しなければならない課題も多々あるが、これまでの成果を糧にメンバー個々の能力を限定的に捉えるのではなく、一人ひとりのニーズに合った多様な福祉サービスを今後も提供していきたい。筆頭筆者も専門職の知識・技術を生かして、地域で生活する障害者の支援を継続していきたい。

．終わりに

本報告執筆にあたりご協力いただいた「逢い」のメンバーの皆様へ深く感謝申し上げます。なお、本報告の一部は第6回秋田県公衆衛生学会と第67回日本公衆衛生学会にて報告した。

文 献

- 1) 法律第百二十三号：障害者自立支援法第五条21項。平成十七年十一月七日。厚生労働省法令等データベースシステム。
<<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/index.html>?>
- 2) 厚生労働省令第百七十五号：障害者自立支援法に基づく地域活動支援センターの設備及び運営に関する基準第二条1項。平成十八年九月二十九日。厚生労働省法令等データベースシステム。
<<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/index.html>?>
- 3) 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知：地域生活支援事業実施要綱。平成20年3月28日障発第0328001号改正。

< <http://www.fukushi-seisaku.com/chiiki/008.htm#honbun> >

月31日.

4) 特定非営利法人違い：平成20年度総会資料. 2008年 5

5) 特定非営利法人違い：NPO 法人違いパンフレット,
2009.

Activity report of support center services in the community for handicapped persons

Takashi ISHIKAWA^{*,**} Yuko SATO^{**} Sachiko ISHIKAWA^{**}
Ayako TSUKAMOTO^{**} Chizuko MURATA^{**} Fumie ISHIKAWA^{**}

* Course of Occupational therapy, School of Health Sciences Akita University

** Incorporated nonprofit organization Ai

The incorporated nonprofit organization Ai provides welfare services such as creative activities, productive activities, interchange with the local community and leisure activities for the purpose supporting handicapped persons living at home in their community. The exercise of the handicapped person's abilities through the various activities, the improvement of skills in handling human relationships and acquisition of role activities through interchange with other handicapped persons and local residents, and the opportunities offered for handicapped and non-handicapped members of the community to get to know and understand each other, brought results such as the improvement of life skills and skills in handling human relationships. Although issues such as acquisition of stable funding for the service remain, we would seek to provide and promote a range of welfare services depending on individual member's needs.